

「表現の自由」けちらし

空前の「リコール署名偽造」

久野綾子

国際芸術祭あいちトリエンナーレの開幕直後、河村たかし名古屋市長が「表現の不自由展・その後」の「平和の少女像」を目にして、「日本国民の心を踏みにじる行為。即刻中止を」と発言。脅迫、妨害を招いた。「表現の自由」の危機と議論にのぼり世界中に伝わった。3年に1度開く国際芸術祭の鑑賞がわずか3日で不可能になり、「見たい」「再開を」願う人たちが自然発生的に集まり、中止初日に県民の会が生まれ活動スタート。連日会場前のオアシス 21 で、再開求めるスタンディング、およそ 50 数回。閉幕一週間前に再開が実現した。最後の手段、政治介入により、国の補助金 7800 万円全額不交付を発表。半年後の 20 年 3 月減額交付に変更決定。国の動きに敏感な河村市長は日を置かず市議会の決定を踏みにじり、名古屋市の未払い負担金 3300 万円を不払いに。いま交付不交付の裁判中。

自らを正当化したい河村市長は、芸術祭実行委員会長の太田秀章愛知県知事へのリコール(解職請求)署名の行動に出た。

リコールと並行して日本政府に同調、独ベルリンミッテ区長に「少女像」撤去要求の手紙を送付。高須克弥・高須クリニック院長が右派の百田尚樹氏ら数人と 20 年 6 月政治団体をつくり、自称応援団河村市長と高須氏 2 人は大須など繁華街に繰り出しコロナどこ吹く風のリコール演説。河村、高須氏らは著名な戦争肯定、歴史改ざん主義者。この点からもリコール署名を軽視できず、私たち県民はリコール反対行動に力を入れた。

署名集めを終え、各選管に提出された署名は 43 万筆。必要な署名 86 万筆に届かず不成立。不正の告発



に促され、県選管が署名を全調査した結果、83.2%が無効。この内、複数の人が書いたと疑われる署名 90%、選挙人名簿に登録されていない人の署名 48%、故人の署名 8000 筆。前代未聞、空前の不正が明らかになった。

この事実に対して「僕は被害者」と河村市長の第一声に仰天。まず謝罪すべきで道義的責任がある。佐賀県でアルバイトに書き写させたなど警察の捜査が進む。偽造捜査真ただ中、多選否定派の河村氏が市長選に出馬。「当選は恥だ」と落選促す街頭活動は私たちの力及ばず当選した。5月19日団体事務局長の田中孝博容疑者、妻、次男、事務職員の4人が地方自治法違反(署名偽造)で逮捕された。資金の流れも不透明。不正の全容解明が待たれる。偽造事件の中心人物、首謀者は河村、高須両氏と県民の多くはにらんでいる。

河村市長の暴言を皮切りに私たち県民の活動は3年目。作った横断幕は10枚前後。主なタイトルは、見たかったのに! 暴力で「表現の自由」を封殺するな→今すぐ見たあ! 再開を→大村知事へのリコール反対→平和の少女像撤去要請に抗議→選挙で示そう河村 NO! →署名偽造の責任取れ。これら横断幕やバナーは集会、デモ、街頭行動に活力を与えアピールした。

河村市長から不当なターゲットにされた大村知事は、「検閲は表現の自由を守り検閲禁止の憲法に違反する」「民主主義の根幹を揺るがすゆゆしき事態だ」と明快に語った。政治家、首長は憲法を守る義務と責任がある。



❖ 私たちの「表現の不自由展・その後」 ❖

河村市長の暴言をバネに、<私たちの「表現の不自由展・その後」>を7月6日から6日間、名古屋・栄の「市民ギャラリー栄」(中区役所ビル8階)で開催します。19年展示の「平和の少女像」など話題になった作品です。ご来場お待ちしております。

※同封のチラシをご参照ください。